



優秀賞

BizMobile株式会社

「BizMobile Go!」

メーカーを超えIoT家電を安全に連携制御

DATA

活用領域・解決する課題

- ・生活用IoTサービスの普及
- ・独自仕様のIoT機器を相互接続

テクノロジー・デバイスキーワード

IoTプラットフォーム、Web API、生活用IoT



BizMobile 代表取締役 ファウンダー 松村淳氏

家電に組み込まれたIoT、そして「Amazon Echo」「Google Home」といった音声入力IoT端末など、生活用のIoTは活況を呈してきた。

メーカーが技術力や機能を競ってきた日本の家電は、企業ごとに垂直統合型で発展している。利用者が「電灯はA社、エアコンはB社」と好きな製品を選ぶと、一つひとつにIoTアプリケーションが紐づき、相互接続ができない課題がある。

ここに挑んだのが、生活用IoT相互接続プラットフォーム「BizMobile Go!」である。

「サイロ化された家電など生活用品を自由につなぐ基盤です。東京大学生産技術研究所のIoT特別研究会が検討したWeb APIの考え方をベースに、必要な機能を再構築し、開発しました」

BizMobile代表取締役・ファウンダーの松村淳氏は開発の背景をこのように説明する。このプラットフォームを介すると、例えば「Amazon Echo」から日本製の電灯やエアコンを制御することも可能になるという。

IoT端末ごとのドライバで複数機器の連携制御を実現

「BizMobile Go!」は、オンプレミスが常識だったモバイルセキュリティシテム＝MDMを初めてクラウド化し、企業で使うモバイルのセキュリティ&プライバシーを守るサービス。フルAPI化により管理者がリモートアクセスをすることなしに、OSのパッチを当てるなどのセキュリティ対策が実施できるのが特徴で、IoT端末にも対応。「MCPC award」では4年連続の入賞を果たしている。

企業利用分野にて、クラウドエンジンを最適に組み合わせ、運用コストを抑えながら自動化されたMDMを提供してきた技術を活かし、新たに生活用IoT分野に踏み込んだ。

相互接続を実現するWeb-APIは次のような構成要素を持つ。

各社独自のプロトコルを備えたIoT機器の接続には、機器用のインターフェースとして「Thingsドライバ」方式を適用。パソコンOSとプリンタドライバの関係のように、IoTの標準仕様がなくとも共通ネットワークへの接続を実現する。メーカー側は機器インターフェースまで開発すればよく、クラウドサービスやアプリ開発から解放されるメリットもある。

アプリケーション側は「IoT Hub」を介して制御し、1つのアプリで複数のIoT機器を制御可能とした。電球とテレビなど、IoT端末を連携したサービスがワンストップで実現できる。

セキュリティに関しては、セキュリティゲートウェイの配置、「IoT HUB」の上に「IoT Safty(関所)」を設け、多重的に継続防御する。

BizMobileの生活用IoT相互接続プラットフォームは、すでに賃貸マンション事業にて採用されている。生活IoT普及への貢献が期待される。

図 BizMobileの生活用IoT相互接続プラットフォーム

